

SOGIE教育の推進に向けて ～大学生の意識調査をてがかりに～

To promote SOGIE education ～Using a survey of college students' awareness of SOGIE～

中山 俊 昭*
NAKAYAMA Toshiaki

要 旨

「SOGI/SOGIE」の認知度は、毎年集団が異なるので一概にいえないが、2020年の調査では5人、2022年の調査では9人と微増し、2023年の本調査では22人と増加している。

これは、人権分野、法的分野におけるパワーハラスメント、いわゆる「SOGIハラ」に関する知識情報が地域誌でもよく掲載され、教育現場でのいじめ教育にも活かすことができる等で、広がりを見せているのかもしれない。

また、学生アンケートをまとめるとSOGIEの広がりへの弊害は固定概念や先入観にあることも関係していることがうかがわれた。したがって、SOGIEの考えを広めるためには、小学生のころから学ぶことがとても大切であるとの意見が多くあった。さらに、SOGIEの概念を学ぶことにより、セクシャリティ問題は、「他人ごと」ではなく「自分ごと」としてとらえるようになったとの記述が多くみられた。

Abstract

Although it is difficult to generalize the level of awareness of "SOGI/ SOGIE" since the population varies from year to year, the number of respondents increased slightly from 5 in the 2020 survey, to 9 in the 2022 survey, and to 22 in this survey in 2023.

This may be due to the fact that knowledge information on power harassment in the human rights and legal fields, or so-called "SOGI harassment," is often published in local magazines and can be utilized in bullying education in the educational field, etc.

In addition, summarizing the student survey, it was suggested that the adverse effects of the spread of SOGIE are related to stereotypes and preconceived notiond.

Therefore, many of the students expressed that in order to spread the idea of SOGIE, it is very important to learn it correctly from the elementary school age.

Many of them stated that by learning the concept of SOGIE, they came to see sexuality issues as "their own business" rather than "someone else's business."

キーワード :SOGIE、LGBT、教育、大学生、自分ごと

Keywords :SOGIE、LGBT、Education、students、personal affair

I. 背景と目的

LGBTという言葉は様々なメディアでみかけることも多く言葉の認知度も高まっている。しかし、SOGI/SOGIEという言葉の認知度が高まっているとはいえない。SOGIは、「Sexual Orientation (性的指向)」と「Gender Identity (性自認)」の頭文字を合わせたものである。また、SOGIEのEは「Gender Expression (性表現)」のことである。

この「性的指向」と「性自認」はすべての人が持って

いる属性でもある。LGBTのくくりで考えるとLGBTは少数派であり、当事者以外は「他人ごと」との意識が強くなる傾向は否定できない。しかし、SOGI/SOGIEは誰もが持っている性的属性なので「自分ごと」として捉えることができる。その捉え方は、ある意味、誰しもが「当事者」であるともいえる。

しかし、我々は、セクシャルマイノリティ教育に関して、「自分ごと」という意識を持っているのであろうか。この意識が乏しい場合、セクシャリティの悩みを抱え

る人に会った場合、共感的に支援できるのであろうか。

また、そのような、SOGI/SOGIE の概念について本学の教育学部1年次生がどの程度認知しているかの調査を筆者は2020年と2022年に行った（中山：2021,2023）。2020年の調査では、「LGBT」という用語は141人中124人、約 87.9%の学生が知っていたが、「SOGI」に関しては141人中4人（2.8%）であった。続いて、2022年の調査では「SOGI」のみの認知度を聞いた。有効回答193人中9人（4.6%）が知っていた。この結果より、現状、小学校、中学校、高等学校の現場では「SOGI」を取り上げた教育はほとんどなされていないことがうかがわれた。

そこで、今年度は、学生に対して、SOGI/SOGIE に関する講義を90分行った後、LGBTQ+ と SOGE/SOGIE の認知度を尋ねるアンケートを行うと共に、講義を聞いて、学生なりに SOGI/SOGIE があまり普及しない要因は何と考えるかを尋ね、SOGI/SOGIE の考え方を広めるための方法等について、自由記述で尋ねた。

その学生アンケートの結果を手がかりに SOGI/SOGIE の考え方を広める方法を考察することを目的とした。

II. アンケート調査の方法

1. 研究対象

教育学部1年生で教育心理学を受講する学生222人。授業終了時に SOGI/SOGIE の講義を聞いた学生に、QRコードを配布しアンケート調査を行った。213人から回答を得、欠損値データを省いた205人（男性98人、女性107人）のデータを研究対象とした。

2. 期間

調査2023年09月21日～25日に配信。09月30日に締め切った。

3. 調査手続き

教育心理学の授業の一環として SOGI/SOGIE に関する講義を行った後に、アンケートを実施した。

4. 倫理的配慮

SOGI/SOGIE に関するアンケートを実施するにあたり、グーグルフォームで作成した。理由は、完全匿名化して回収することができるからである。回答は強制ではなく任意であること。学生を特定できない匿名形式ではあるが授業評価とは一切関係ないことを告知するという事で倫理的配慮を行った。

III. 数量データアンケート部分

1. 質問内容

- (1) 生物学的性別。
①女性 ②男性

- (2) LGBT の授業を小学校、中学校、高等学校で受けたか。

- ①はい ②いいえ

- (2)-1「はい」と答えた方に、どこで学習したか。（複数回答可）

- ①小学校 ②中学校 ③高等学校

- (3) SOGI という言葉の意味を今日の講義を受けるまでに知っていたか。

- ①はい ②いいえ

- (3)-1「はい」と答えた方に、どこで学習したか。（複数回答可）

- ①小学校 ②中学校 ③高等学校

- (4) SOGI/SOGIE の意味を理解はできたか。

- ①はい ②どちらかといえばはい

- ③どちらかといえばいいえ ④いいえ

- (5) 自分も当事者という感覚に抵抗感はあるか。

- ①ある ②どちらかといえばある

- ③どちらかといえはない ④ない

- (6) 性自認。

- ①女性 ②男性 ③どちらでもない

- (7) 性指向。

- ①女性 ②男性 ③両性 ④性愛対象なし

- (8) 性表現（服装等）。

- ①生物学的性に準じた表現

- ②生物学的性と反対の表現

- ③生物学的性にとときどき準じない表現

2. 分析方法

(1)～(8)の質問は数量データで分析を行った。単純集計と統計的手法は χ^2 検定を用いた。有意差は0.05以下とし、有意な差のある場合のみ表記した。検定には SPSS Ver29を用いた。

3. アンケート調査(1)～(4)数量データ部分の結果

(1) 生物学的性別の人数

生物学的性別の人数を表1に示した。

表1 生物学的性別

N=205

	女性	男性
有効回答数	107 (52.2%)	98 (47.8%)

(2) LGBTの授業を小学校、中学校、高等学校で受けたか。

回答結果を表2に示した。

表2 LGBTの授業を受けたかどうか

N=205

	はい	いいえ
有効回答数	173 (84.4%)	32 (15.6%)

「LGBT」の授業に関しては、84.4%の者が学校で授業を受けていることが分かった。ほとんどの学校でセクシヤリティ関連の授業を行っていることがうかがわれた。

(2)-1「LGBT」をどこで学習したか（複数回答可）

回答結果を表3に示した。

表3 LGBTの授業を校種（複数回答） N=173

小学校	31
中学校	121
高等学校	146

「LGBT」という言葉の学習等について、今回の調査では、中学校、高等学校の年齢で多く学んでいることが明らかとなった。

(3) SOGI という言葉の意味を今日の講義を受けるまでに知っていたか

回答結果を表4に示した。

表4 SOGIを知っていたか N=205

	はい	いいえ
有効回答数	22 (10.7%)	183 (89.3%)

集団が異なるので何ともいえないが、1回目の調査では141人中4人(2.8%)、2回目の調査では193人中9人(4.6%)、今回が、205人中22人(10.7%)が知っていたということは、小学校、中学校、高等学校の教育現場で少しずつではあるがSOGI/SOGIEの教育が行われるようになってきているのかもしれない。しかし、同時に184人(89.3%)と多くの者は全く知らなかったと回答した。

(3)-1 SOGI をどこで学習したか（複数回答可）

回答結果を表5に示した。

表5 SOGI/SOGIEの学習（複数回答） N=168

小学校	2
中学校	7
高等学校	14

SOGIについては、高等学校で学んだ者が最も多く、小学校では極端に少ない結果となった。小学生ではSOGIの概念を学ぶには難しいと教育現場では考えているためかもしれないが、SOGIの概念は教育現場で、まだまだ浸透していないことがうかがわれた。

(4) SOGI/SOGIE の意味や理論を理解できたか

回答結果を表6に示した。

90分の講義で多くの者が、だいたい理解できたよう

表6 SOGI/SOGIEの講義後の理解度 N=205

はい	90 (43.9%)
どちらかといえばはい	92 (44.9%)
どちらかといえばいいえ	20 (9.8%)
いいえ	3 (1.5%)

である。理解度に関して男女での優位な差は特になかった。

(5) 自分も当事者という感覚に抵抗感はあるか

回答結果を表7に示した。

表7 自分も当事者という感覚に抵抗感はあるか N=205

ある	2 (1.0%)
どちらかといえばある	14 (6.8%)
どちらかといえはない	56 (27.3%)
ない	133 (64.9%)

講義を受けて、他人ごとではなく「自分ごと」として受け止めることにあまり抵抗感はないことがうかがわれた。

(6) 性自認

回答結果を表8に示した。

表8 性別と性自認の一致度 N=205

一致	201 (98.0%)
不一致	2 (1.0%)
どちらでもない	2 (1.0%)

男性で性自認が女性であると回答した者は1人もいなかった。女性で性自認が男性であると答えた者は2名いた。

(7) 性指向

回答結果を表9に示した。

表9 生物学的性別と性指向のクロス表 N=205

	性指向				合計
	異性愛	同性愛	両性愛	性愛なし	
女性	91 85.0%	5 4.7%	8 7.5%	3 2.8%	107 100%
男性	94 96.0%	1 1.0%	2 2.0%	1 1.0%	98 100%
合計	185 90.2%	6 2.9%	10 4.9%	4 2.0%	205 100%

男性で2人(1.0%)、女性で3人(1.5%)の学生において同性愛者と回答した。また、男女で11人(5.4%)が両性愛であると回答し、他に3人(1.5%)が性愛なしと回答した。男女での優位な差はなかった。

(8) 性表現

回答結果を表10に示した。

生物学的な男性、女性と性表現で χ^2 検定を行った。結果、「生物学的性にとどき準じない表現」に関して、生物学的性の男性と女性で有意な差がみられた。

表10 生物学的性別と性表現のクロス表 N=205

	性表現（服装等）			合計
	生物学的性に 準じた表現	生物学的性に ときどき準 じない表現	生物学的 と反対の 表現	
女性	72 67.3%	34 31.8%	1 0.9%	107 100%
男性	95 97.0%	2 2.0%	1 1.0%	98 100%
合計	167 81.5%	36 17.6%	2 0.9%	205 100%

$\chi^2=31.277$ df 値 2 P<0.001

4. 数量データの考察

(1) SOGI/SOGIE の認知度について

中山（2021、2023）は SOGI/SOGIE の認知度に関する調査を行った。毎年の集団が異なるので一概にいえないが、2020年の調査では4人、2022年の調査では9人と微増し、2023年の本調査では22人と増加している。少しずつではあるが SOGI/SOGIE の認知度は高まりつつあるといえる。これは、様々な自治体の広報紙（例えば、明石市、宍粟市、愛知県、川崎市他多数）に、SOGI の解説や、いわゆる「SOGI ハラスメント」に関する啓発項目が多く記載されている。人権分野、法的分野において、「SOGI ハラスメント」は、パワーハラスメントであるとの知識情報や啓発活動が活発に行われており、そのような媒体に触れる頻度はあがっているからかもしれない。また、中学校、高等学校の現場でも「SOGI ハラスメント」はいじめ問題として授業でも取り上げられやすい環境にあるからかもしれない。

さらに、SOGI/SOGIE の学習は、性的な部分の理解も関係してくるので中学校や高等学校の生徒の方が性的な部分は発達的にも学びやすいのかもしれない。しかし、学研教育総合研究所幼児白書 Web 版（2017）によれば、幼稚園時代より、色とジェンダーなどの固定傾向の報告もあり、幼児期から、子ども同士が多様な視点でお互いを認め合うような感性の教育は重要であると思われる。その意味合いからすれば SOGI/SOGIE の考えは幼児期からすすめ広げるのが重要であるといえる。

(2) SOGI/SOGIE の当事者意識への抵抗感について

「Sexual Orientation(性的指向)」と「Gender Identity(性自認)」の SOGI は、全ての人の性の属性であり、必ずどこかに当てはまるという考えである。したがって、全ての人が当事者であるともいえる。しかし、この当事者という意識に対して、筆者は学生が違和感や抵抗感を持つのではないかと予想したが、92.2%の学生が、「抵抗感はない」または「どちらかといえば抵抗感はない」と回答している。SOGI/SOGIE を正しく学ぶことで、例え

ば「SOGI ハラスメント」的問題も、「他人ごと」ではなく「自分ごと」として、捉えることができるようになり「SOGI ハラスメント」等の減少につながるのではないかと感じた。

(3) 各自の SOGI/SOGIE 意識について

まず、生物学的性と性自認に関しては、201人（98.0%）の者が一致しているシスジェンダーと回答した。しかし、2人（1.0%）はトランスジェンダーであり2人（1.0%）は X ジェンダーと回答した。性指向に関しては同性愛が6人（2.9%）、両性愛が10人（4.9%）、性愛なしが4人（2.0%）であった。前年度の調査でも同様の結果であった。毎年の学年次集団では同性愛、両性愛、性愛なしの学生は一定数いるということが明らかになった。このことから「SOGI ハラスメント」対応は重要な課題であることが明らかとなった。また、性表現では、2人（1.0%）の学生がトランスジェンダー的表現をしていると回答し、36人（18.0%）の学生がユニセクスの表現を取り入れており、ジェンダーの垣根を越えた性表現をしていると回答した。統計的な処理では、生物学的男女において有意な差がみられた。女性の方がよりジェンダーレスな性表現を行っていることがうかがわれた。この結果は、中山（2023）の調査結果とほぼ同じであった。この理由は、生物学的男性から女性モードへの服装表現は、生物学的女性から男性モードへのチェンジより、骨格等での見た目の違和感が大きいからかもしれない。いわゆるルッキズムの問題が関係しているのかもしれない。

SDGsの10番目の目標に「人や国の不平等をなくそう」がありその中でルッキズムの克服が掲げられている。したがって、SDGsの観点からも SOGIE の推進は重要であることがうかがわれる。

IV. 自由記述のテキストマイニングによる分析

1. 質問内容

- (1) SOGI/SOGIE という概念を広めるにあたっての弊害は何だと思うか。
- (2) SOGI/SOGIE という概念を広めるための方法にはどのようなものが考えられるか。
- (3) 何かあれば自由な感想を

2. 分析方法

(1)、(2) の自由記述部分をテキストマイニングのフリーソフトである KH コーダ3を用い分析した。また、一部、ワードクラウドの作成に関しては、ユーザーローカル社の AI テキストマイニングを使用した。

テキストマイニングを用いた理由は、文章データを形態素解析し、数値化し、多変量解析によりデータを処理したもので自由記述をより客観的に分析することができ



図1 SOGIEを広めるための弊害ワードクラウド図

るためである。

3. 自由記述 (1) の結果

(1) SOGI/SOGIE という概念を広めるにあたっての弊害は何だと思ふかについて

SOGI/SOGIE という概念を広めるための弊害となるようなものは何だと思ふかに関する自由記述の回答を、205人中185人 (90.0%) から得た。

表11 SOGI/SOGIEを広めるにあたっての弊害に関する自由記述の頻出語

抽出語	回数	抽出語	回数
人	31	抵抗	7
自分	20	認識	7
概念	14	目	7
周り	13	問題	7
偏見	13	考え	6
固定	12	考える	6
性	10	差別	6
性別	9	男	6
理解	9	マジョリティ	5
マイノリティ	8	違う	5
今	8	関係	5
女性	8	女	5
LGBT	7	先入観	5
考え方	7	男女	5
男性	7	当事者	5

(1)-1 記述の統計量

「思う」及び「助動詞」、「助詞」を省き分析を行った。その結果、総抽出語の数は1,923、異なり語数は392、文は142であった。なお、異なり語とは、同一の語彙が複数回登場しても1語とみなす数え方のことである。

(1)-2 頻出語の分析

頻出語をユーザーローカル社のAIテキストマイニングで視覚化したワードクラウド図を図1に示した。さらに、表11に、KH コーダ3による頻出語を示した。頻出語から、「人」、「自分」などを除くと「固定」、「概念」や「先入観」といった否定的なワードが多く含まれているのがわかった。ユーザーローカル社のAIテキストマイニングのワードクラウド図からも「固定観念」、「偏見」、「先入観」といった否定的なワードが強調されていた。

これらの結果より、多くの学生は、セクシャルマイノリティ関連を世間一般の人々は否定的な概念とみておると感じており、そのことで弊害をもたらしているのではないかとおっているようである。

また、これらの特徴語はどのような言葉と共起しているのかをKH コーダ3で分析した。結果を図2に示した。図2から、「固定」、「概念」は「固定概念」として、他に「先入観」と「抵抗」を気になる特徴語として原文から抽出し考察すすめた。

(1)-3-①「固定概念」についての原文結果

- ・セクシャルティに対するみんなの先入観や固定概念が周りにあり、話すことが恥ずかしい話題であるから。
- ・性別が分けられ自分を多数派と考える思想や固定概念。
- ・幼少期からこの概念について学んでいないため固定概

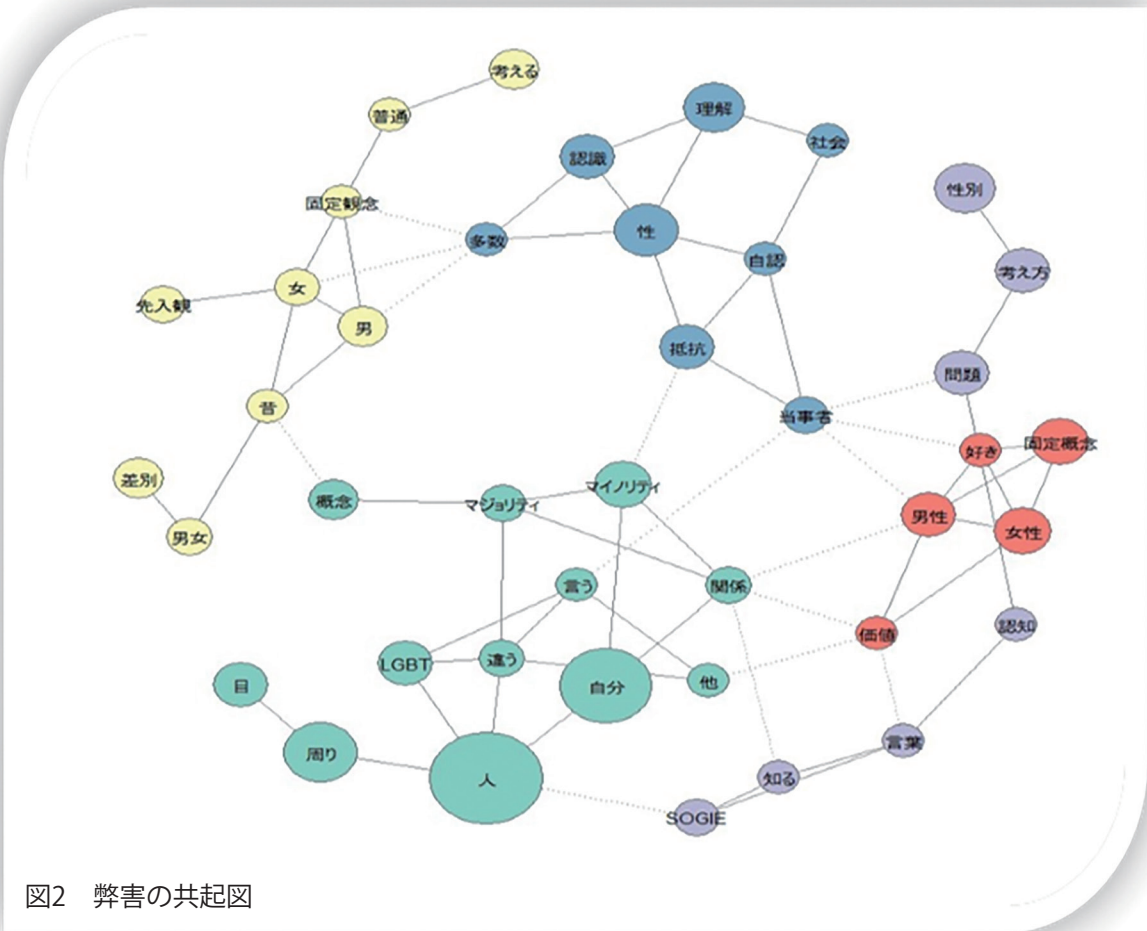


図2 弊害の共起図

念が生まれてしまっていること。

- 自分を多数派と考える思想、固定概念。
 - 男性は女性が好きで、女性は男性が好きであるという古来からの固定概念。
 - 性自認や性的思考について触れるのがタブー視される社会の固定概念的雰囲気。
- このように、原文においてもネガティブな固定観念が多く書かれていた。

(1)-3-②「先入観」についての原文結果

- いまだに固執している昔からの男、女という意識と周りの目や先入観を感じる。
 - セクシャリティに対するみんなの先入観、固定概念。
 - 周りに話すことが恥ずかしい話題であるから、友達や周りの人の目が気になるという先入観がある。
 - 男性だから、女性だからなどに関係なく個人の価値観を主張出来ない雰囲気や人の先入観を感じる。
- この「先入観」に関しても、ほぼ「固定観念」と同義で表現され、セクシャリティ問題に関わることをタブー

視していると捉えている学生が多くいることがわかった。

(1)-3-③「抵抗」についての原文結果

- 当事者意識を持つことに対して抵抗がある人がいること。
- 自分はトランスジェンダーなどと一緒ではないという抵抗。
- マジョリティがマイノリティを守らないといけないという教育や概念が、世間に広がっていることが抵抗になると考えられる。
- やはり、自分がマイノリティになるのが嫌だということが抵抗を生む。
- クエストニングの方々は抵抗があると思います。
- 人の性別を何かの部類に当てはめようとする自体が性自認への抵抗になっていると思う。
- 過度に正常と思っている。そのため、セクシャリティの問題の当事者という言い方に抵抗を感じる可能性がある。

これらの文章から、学生は抵抗という言葉に対して、セクシャルマイノリティとは違う自分を強く願うなどの思いが抵抗を生んでいるのではないかと、自分の視点で積極的に書いている回答が多くあった。

4. 自由記述(2)の結果

(2) SOGI/SOGIE という概念を広めるための方法にはどのようなものが考えられるか

まず AI テキストマイニングにて頻出語のワードクラウド図を作成し、続いて KH コーダ3にて頻出単語表を作成し、共起ネットワーク図を示し分析した。

表12 SOGI/SOGIEを広めるにあたっての弊害に関する自由記述の頻出語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
SOGIE	21	講義	7
教育	15	人	7
学習	13	増やす	7
授業	13	持つ	7
学校	12	多様	7
考える	11	SNS	6
思う	11	講演	6
LGBT	10	持つ	6
学ぶ	10	自分	6
行う	10	説明	6
テレビ	9	認識	6
メディア	9	発信	6
小学校	9	情報	5
知る	9	性	5
普及	9	正しい	5
概念	8	伝える	5
教える	8	当たり前	5
ニュース	7	認める	5
機会	7	偏見	5
言葉	7		

(2)-1 記述の統計量

「助動詞」、「助詞」は省き分析を行った。その結果、総抽出語の数は2,056、異なり語数は456、文は146であった。なお、異なり語とは、同一の語彙が複数回登場しても1語とみなす数え方のことである。

(2)-2 頻出語の分析

出現回数が5回以上の頻出単語を表12に示した。「SOGI」、「教育」、「学習」、「授業」、「学校」、「学ぶ」、「小学校」等が多く出現した。

頻出語のワードクラウド図を図3に示し視覚的にも分

析した。

「教育現場」で、「小学校」の「早い」段階から「取り上げ」、「授業する」ことや、大学等の「講義」や「一般講演」等を受けること、「テレビCM」や「SNS」を活用し、正しい知識を広げることが重要であると視覚的に読み取れた。

また、共起ネットワーク図を図4に示した。

共起ネットワーク図でも、「教育」が大切であるとの意見が多く占めているのがわかった。無知が一番の弊害であり、正しく知ることの意識が大変重要であることが読み取れた。

自由記述文からは、「自分は関係ないと思っていたが関係あることに驚いた」、「誰もが当事者ということなので私もその一人です」、「これからもっと学びたい」等、肯定的な記述が多くみられた。

5. 自由記述(3)の結果

自由記述より、「全ての人々が属するとしているのが良いと思った」、「男女で分けるのではなく、同じ延長線上の属性と捉えるのはすごく良い考えだと思った」、「全人類が当てはまるので、マイノリティ意識が少し減る点が良いと考える」、「SOGIは全ての人にとって対等で平等であるものなのでとても重要だと感じた」、「自分自身は普通の性別だと感じていましたが、今日の授業で誰もがSOGIという属性に入るということが分かりました」、「マイノリティは自分とは関係ないものだと思っていたものが身近になった」等の意見が多くあり、学ぶことでSOGI/SOGIEの概念は定着すると強く感じた。もちろん、「全員を当事者にするための言葉に見えてしまった」、「いきなり自分も当事者と言われて少し戸惑うだけだ」等、否定的な意見も散見するが全体的には SOGI/SOGIE 教育の必要性を肯定する記述が多くみられた。

V. 総合考察

1. マジョリティ対マイノリティ

SOGI/SOGIE という概念を広めるにあたっての弊害は何だと思ふかの自由記述アンケートより、「マジョリティ」と「マイノリティ」を含む意見をいくつか拾ってみた。

「自分がマイノリティになるのが嫌だという抵抗感がある」、「マジョリティが、マイノリティを守らないといけないという教育や概念が、世間に広がっていること」、「マジョリティとマイノリティが違うものだ」と認識している人が多い、「マジョリティに属することで安心してしまふ心」、「自分はマイノリティの問題に関して関係ないという思いがあること」等であった。

これらの意見では、マジョリティだから安心、マイノリティは守ってあげなくては行けないが、マジョリティの自分とは違うというマジョリティ対マイノリティの構



図3 SOGIEを広めるためのワードクラウド図

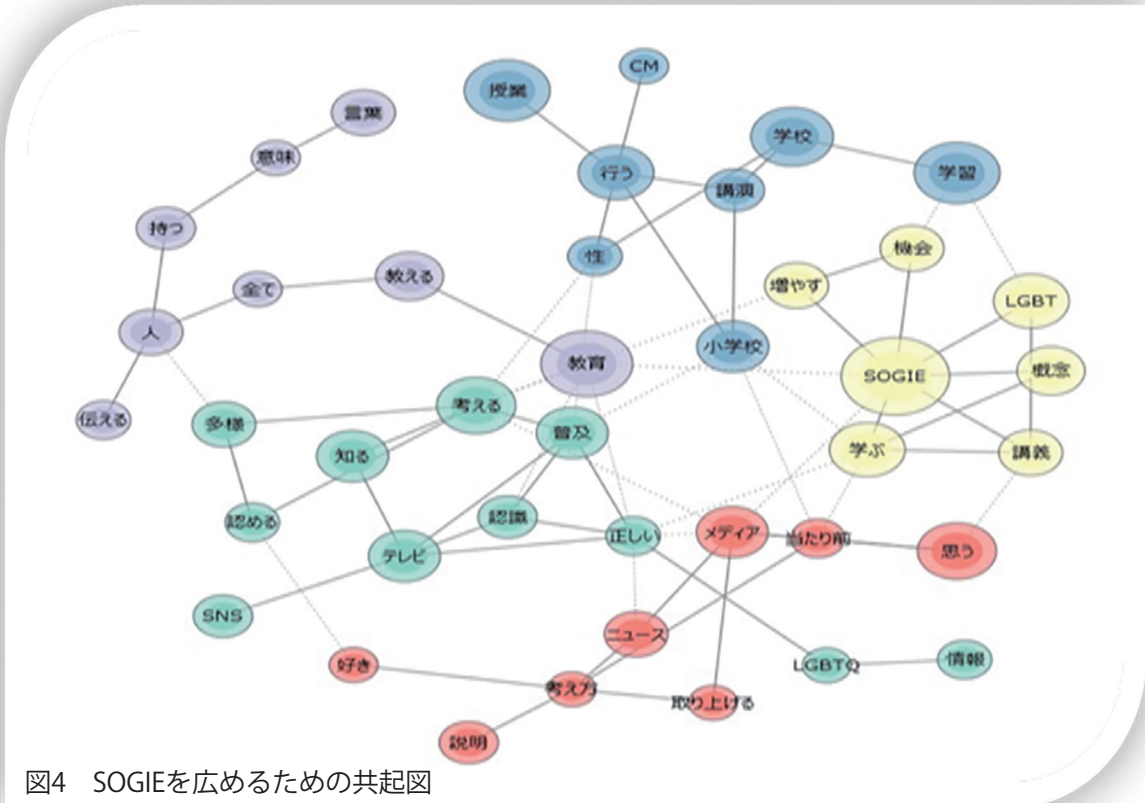


図4 SOGIEを広めるための共起図

図が見え隠れする。中山（2021）のアンケート調査では、LGBTQ+の教育を押しすすめた場合、「LGBTQ+の当事者にとっては、自分探しということにおいては有効であると思う」という記述がある反面、今回の調査でも、当事者以外の者にとっては他人ごとと捉えたり否定的に捉えたりする意見が複数みられた。例えば「性的マイノリティの理解はすすむが、自分とは関係ない」、「意味は分かるが、やはりきれいごとで、他人ごととしか思えない」等である。これは、電通（2021）の報告にある、LGBTQ+に関する知識はあるが課題意識はあまり高くなく「知識ある他人層」という人たちに該当する。電通の調査では、この割合は全体の34.1%と最も多かった。この結果は、セクシャルマイノリティの理解は進んでもあくまで「他人ごと」であり「自分ごと」ではないということになる。

しかし、このSOGI/SOGIEの考えは、すべての人の「性自認」、「性的指向」、「性表現」における属性を表す。それはある意味、全員が当事者であるともいえる視点である。セクシャリティ問題を「自分ごと」として受け止めることができれば「SOGI ハラスメント」等の問題を減らすことができるのではないかとと思われる。

2.SOGI ハラスメント

SOGI/SOGIE は人権教育としても成立しやすい。「お前ホモか」、「女やったらスカートはいて化粧ぐらいしなさい」、「あの線の細い仕草女みたい」等の発言は「SOGI ハラスメント」であり、パワーハラスメントの人権問題である。

「SOGI ハラスメント」発言は、身近に当事者がいないとの思い込みからの発言も多い。いないのではなくみえていないだけである。特に各個人の性的指向はみえない。筆者が行った3回のアンケート調査（2020年、2022年、2023年）でも、毎回、必ず何人かは、バイセクシャルであり、同性愛であり、トランスジェンダー的であると回答している。性的少数者はいないのではなく、みえていないだけである。この現実をしっかりと受け止め、セクシャリティに関しては、各自が「当事者」であり、「自分ごと」にできる視点を持つ風土を身近に築く必要がある。繰り返しになるが、SOGI/SOGIE の概念を学ぶことにより「セクシャリティ問題」を少しでも自分ごととして認識できるようになれば、「SOGI ハラスメント」の防止や減少も期待できるのではないだろうか。

3.SOGI/SOGIE の広め方と現状と今後

「SOGI/SOGIE という概念を広めるための方法にはどのようなものが考えられるか」の自由記述から、「教育現場で丁寧に SOGIE の概念を伝える取り組みを行うことで、自他のセクシャリティ理解が進んでいくことが期

待できるのではないか」等の記述が多くあった。もちろん、逆に「SOGIE の意味は分かるが、やはりきれいごとで、「他人ごとでしかない」、「セクシャリティ問題解決のための都合の良い解釈」等の否定的意見もみられた。そのような中、セクシャリティ分析サイトで「anone」というアプリがあり、学生に紹介した。このアプリは66問から構成され、性的な指向に関する質問が多くある。かなり細かく自己の恋愛観やセクシャリティの分析ができるようになっている。このアプリを試した複数の学生から、「今までは、自分はマジョリティと思っていたが、いろんな側面からみるとどの位置にあるかみえ、みんなが少しずつことなりグラデーションであることが実感できた」、「SOGIE の概念がかなり自分ごととして理解できた」等の意見が多くあり、自分自身のセクシャリティ理解に有効なアプリなのではないかと感じた。

今回のアンケートを読む限り、教育現場ではまだまだ SOGI/SOGIE の教育を取りあげているとはいえないが、SOGI/SOGIE の認知度は確実に高まりつつあった。

また、SOGI/SOGIE の理念を広めるための結論は、「学校現場で「SOGI/SOGIE 教育」を「早い段階」から行うことで多くの学生が述べている。そこから自他のセクシャリティ理解がすすみ「SOGI ハラスメント」等も解消されていくのではないかと強く感じた調査であった。

文献

愛知県 SOGI ガイドブック

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/404898.pdf>

（2023年11月01日閲覧）

明石市ホームページ 暮らしコミュニティ

<https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/sdgs/lgbtqsogiekiso.html>

（2023年11月01日閲覧）

anone セクシャリティ分析アプリ：

<https://anone.me/>

（2023年9月01日閲覧）

学研教育総合研究所幼児白書 Web 版：「幼児の日常生活学習に関する調査」学研教育総合研究所 2017

<https://www.gakken.jp/kyouikusouken/whitepaper/201708/chapter4/06.html>

（2023年11月02日閲覧）

広報「かわさき労働情報」のインターネット版2023年11月01日

<https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000155150.html>

（2023年11月01日閲覧）

観光経済新聞社：【データ】LGBTQ+ 調査2020電通調べ

2022年04月14日号

<https://www.kankokeizai.com/>【データ】lgbtq 調査
2020%e3%80%80 電通調べ /

(2023年11月05日閲覧)

中山俊昭：大学生の意識調査からみえるセクシャルマイ
ノリティ教育について 大和大学研究紀要 7 73-
82 大和大学 2021

中山俊昭・松尾将作：LGBT から SOGIE へー大学生の
意識調査と相談事例からー 大和大学研究紀要 9
65-74 大和大学 2021

しそろにじいろ相談 宍粟市

[https://www.city.shiso.lg.jp/material/files/group/40/
nijjirosoudan.pdf](https://www.city.shiso.lg.jp/material/files/group/40/nijjirosoudan.pdf)

(2023年11月05日閲覧)